

太左衛門橋

たざえもんばし ● Tazaemon-bashi

〈道頓堀川〉



道頓堀と宗右衛門町を結ぶ道頓堀川に架かる太左衛門橋。橋の架設は明確ではないが、明暦期(1655～1658)の町絵図に描かれ、芝居小屋への通路として早くから架けられていたようだ。寛永3(1626)年に道頓堀の南側に芝居と遊郭が公認され、その数年後には芝居櫓が立ち並ぶ繁華街になった。橋名も、その頃京都から進出し歌舞伎小屋を開いた興行師・大坂太左衛門に由来する。町橋だったこの橋は、橋筋の町々からの醸金(きょきん)によって維持されていたため、芝居小屋にも多大な負担があったと思われる。

華やかな雰囲気のある橋だったが、交通路としては需要が低く、昭和に入っても木橋だった。第二次世界大戦で焼失し、地元の人によって昭和23(1948)年に木造橋が復旧された。同33(1958)年には大阪市が永久橋に架け換え、昔を偲び高欄部に擬宝珠(ぎぼし)の飾りを付けた。

現在の橋は、本橋の西側を平成16(2004)年、東側を同20(2008)年に木を基調とした側道橋を整備し、本橋も同19(2007)年に改修した。また、道頓堀川遊歩道「とんぼりリバーウォーク」の戎橋～太左衛門橋～相合橋間が完成。同22(2010)年度には、湊町～日本橋間が遊歩道でつながる予定。

